

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Wikimedia Commons : ウガンダ・コーブ

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL. 6

【JICAボランティア帰国報告会】開催！

2008年3月8日(土)、山形市の大手門パルズにおいて、JICA ボランティア帰国報告会が開催されました。晴れ渡る弥生の空の下、50名以上の方々がご参加。青年海外協力隊に参加した伊藤まりさん、鏡康典さんの活動報告に耳を傾けました。

伊藤さんは平成17年度1次隊青少年活動隊員としてウズベキスタンの孤児院に赴任。ウズベク語には「貸して」という言葉がなく、貸したつもりのボールペンが返ってこないなど文化の違いに戸惑ったそうです。花笠踊りや七夕飾りなど日本文化を一緒に楽しんだり、子どもたちのアイデアと自主性を引き出

してレクリエーションをしたりと、積極的な活動を繰り返す中で、「金銭的に豊かでも親と離れ孤児院で暮らす子どもと、貧しくとも親と一緒に暮らす子ども。幸せとは何か」と感じた体験を紹介しました。



鏡さんは青年海外協力隊の一般短期ボランティアとしてウガンダ共和国に赴任し、ビクトリア湖畔に位置するウガンダ野生動物教育センターに所属。ほかの隊員と違って6か月という短期間の派遣中に何ができるのか明確に目標を定めて活動を始めたとのこと。派遣先の現状を分析した上で、順路やごみ箱位置を示した観光案内図の作成など日本の観光業界での経験を生かして活動を展開し、来園者を増やすための実践を着実に進めてきた経験が報告されました。

グループ懇談の様子↓ (→裏面へつづく)

グループ懇談の様子↓

(→裏面へつづく)



『やまがた地球家族』今号のヘッドライン

- 【JICAボランティア帰国報告会】開催！
～2008/3/8、山形市の大手門パルズにて
- 山形県出身者の派遣状況は？
～現在28名が派遣中。女性が圧倒的多数です
- 協力隊等経験者等の経験を地元企業の力に
～県内の企業・事業所様、「リスト」へのご登録受付中です
- 国際協力エッセイコンテスト入賞作品のご紹介
～県内の中学生による入賞エッセイ《古い鉛筆》を全文掲載
- 平成19年度事業報告
～昨年度の活動実績を一覧でご報告します
- インターネットで見るJICAボランティア
～世界の「今」を伝える《ワールドレポーター》にアクセス
- ドメイン変更のお知らせ

(→つづき)

この日は JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテストの表彰も行われ、受賞者の鈴木映季さん（山形七中1年）が入選作品「古い鉛筆」を朗読発表しました。鈴木さんは、帰国報告をした伊藤さんの教え子。ウズベキスタンの子どもたちとの交流の中で、「思いやりの心を持つことは相手の笑顔をつくること」と気づいた経験を綴りました。



(了) ※鈴木映季さん入賞エッセイは次頁で全文掲載して

山形県
出身者の
派遣状況は
？

2008/4/30 現在、世界各地で活動している 3152 人のうち、山形県出身者は 28 名。そのうち 20 人 = 71% と女性比率が著しく高い（全国での女性比率は 55%）のが特徴です。

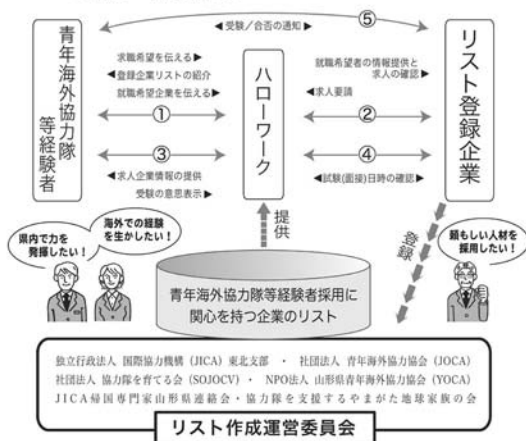
- 青年海外協力隊：24名 小学校教諭・日本語教師など教育系が多い一方、看護師・理学療法士など医療系も目立つ。アフリカでエイズ対策に取り組んでいる協力隊員も3名。
- シニア海外ボランティア：3名 前山形大学学長が任期満了後に65日間の訓練を受け、パラグアイに派遣されたことも大きな話題となった。
- 日系社会青年ボランティア：1名 1996年に開始された制度で、ブラジルなど日系人が多く生活している中南米9ヶ国に派遣されている。

青年海外協力隊等の経験者を地元企業の力に！

青年海外協力隊等経験者の採用に関心を持つ企業のリストについて

青年海外協力隊などの海外ボランティアが外国での活動を終えて帰国した際、県内の企業・事業所等への就職・再就職のための窓口となるのは「ハローワーク」（職業安定所）です。この「リスト」は、ハローワークを通じて求人と求職者のマッチングと紹介を円滑にするために、あらかじめ企業・事業所様からご登録頂いておくデータベースです。是非お気軽にご登録を！

- ・登録事項：会社名、会社所在地、電話番号、会社の業種
- ・登録期間：1期間 原則3カ年



*この「リスト」は、国際協力を支援する関係団体の参画・協力のもとに、リスト作成運営委員会（代表：酒井忠久「協力隊を支援するやまがた地球家族の会」会長）が作成しています。

詳しいお問合せとご登録は...

☎ 023-645-6025 NPO法人 山形県青年海外協力協会事務局 内
〒990-0832 山形県鶴岡市一丁目7-19
インターネットからは <http://www.chikyukazoku.net/list/>

当会を含む『リスト作成運営委員会』によって、『青年海外協力隊等経験者の採用に関心を持つ企業のリスト』（以下「リスト」）の作成が始まります。青年海外協力隊などの海外ボランティアが外国での活動を終えて帰国した際、県内の企業・事業所等への就職・再就職のための窓口となるのは「ハローワーク」（職業安定所）です。

この「リスト」は、ハローワークを通じて求人と求職者のマッチングと紹介を円滑にするために、あらかじめ企業・事業所様からご登録頂いておくデータベースです。「リスト」へのご登録は下記から、お気軽に！

◇電話で → 023-645-6025（NPO法人 山形県青年海外協力協会事務局 内）

◇ネットで → <http://www.chikyukazoku.net/list/> ※チラシのダウンロードも可能です

★入選 【古い鉛筆】 鈴木映李さん

(山形市立第七中学校 一年)

わたしたちの学校に、青年海外協力隊の一員として、去年まで、ウズベキスタンで活動していらっしやった、まり先生がいます。七中の生徒会も、まり先生を通じて、ウズベキスタンの仲間との交流をしていました。その一つに、「世界の笑顔のために」というプロジェクトがあり、いろいろな品物を送る活動をしていました。

昨年、サッカーボールや、小学生の時に使っていたピアノや絵本などを、全校生で集めて送ったそうです。まり先生のお話をきくと、孤児院の子どもたちはとても喜んで、大切に使ってくれたそうです。品物を送ったあと、ビデオレターがウズベキスタンから届きました。それを見ると、日本語で「ありがとう」と、みんな笑顔で言ってくれていました。そこで今年も全校でとりくむことになりました。わたしは何を送ろうかとても悩みましたが、ゆかたを送ることになりました。日本ならではの物を送って、日本のことを、もっと知ってもらいたいと思ったからです。

一学期の終業式の日、まり先生の講話がありました。ウズベキスタンという国のこと、孤児院の子どもたちのことなど、たくさん聞きました。

「みんなから、たくさんさんの品物を集めてもらったけど、送れないものがありました。」まり先生がおっしゃいました。わたしのクラスでも、絵本や文房具など、箱いっぱい集まりましたが、送れなかったのは何だろうと思いましたが、それは、使いかけの鉛筆とけしごむでした。まり先生は、それを見せてくれました。使いかけだけれども、まだ十分使えるものでした。まり先生は、おっしゃいました。



国際協力エッセイコンテスト

2007年度【JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト】が開催され、中学高校合わせて4万点近い応募の中から、中学生の部は133作品、高校生の部は96作品が入賞しました。県内から入賞した中学生の作品を全文で紹介しします(学年は応募当時)。また、新庄市立日新中学校は学校賞を受賞しました。

「あなただったら、これが送られてきたら、どう思いますか?」

わたしは、はっと気づかされました。そして、何か胸が痛くなりました。

わたしは、まり先生のお話を聞く前に「恵まれない子どもたちに、品物を送る」という考えがあったように思います。彼らの笑顔のことを考えていなかったのです。わたしは鉛筆をいっぱい持っています。時には、模様が気に入らなかつたり、ちょっと短くなつたりすると、まだ使えても、捨ててしまうことさえあります。その、捨てるかもしれない鉛筆を、わたしは送ろうとしていたんだと気づきました。送られた相手の気持ちを考えると、どんな物を送ればいいのか、気づくことができます。ウズベキスタンの子どもたちもわたしたちと同じなのです。彼らがうれしいことは、わたしたちもうれしいし、わたしたちが悲しくなることは彼らにとっても悲しいことです。心のどこかでかわいそうだからと見下していたように思えました。

使った古くなった鉛筆を送ったら、彼らはどう感じるでしょう。だから、もしも自分が反対の立場なら、と考えると、相手の事を思って送ったら、喜んでくれるのだろうと思いました。わたしは、もっと考えたいと思いました。まり先生がみせてくださった古い鉛筆は、わたしに大切なことを教えてくれました。

このプロジェクトだけではなく、わたしの周りにいる人たちにも思いやりの心を持つということは、誰かの笑顔をつくるということだと思いました。自分勝手に「してやる」ことではないのです。

古い鉛筆を見たときのズキツという痛みと、ビデオでみた、ウズベキスタンの仲間の笑顔を、忘れないでいようと、わたしは思いました。

(終)

《平成19年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期日	事業	場所	参加者
5月9日	青年海外協力募集相談会	出羽庄内国際村(鶴岡市)	12名
6月13日	19年度1次隊壮行会	山形県庁(山形市)	13名
6月16日	定例総会	鶴岡市中央公民館	30名
10月17日	企業懇談会実務者会議	AIRY(山形市)	24名
11月15日	国際力を高める懇談会	響ホール(庄内町)	37名
12月20日	19年度2次隊壮行会	山形県庁(山形市)	12名
3月8日	ボランティア家族懇談会及び帰国報告会	大手門パルズ(山形市)	54名
3月21日	19年度3次隊壮行会	山形県庁(山形市)	8名

※6月16日、3月8日に2回の機関誌発行

インターネットで見る JICAボランティア

●月刊『SPOON』協力隊特集

月刊『SPOON』は、酒田地域を中心に庄内で広く読まれている雑誌。2007年10月号では《われら青年海外協力隊。》と題した特集記事が掲載されました。撮影に携わったカメラマンも協力隊経験者とのことで、深く掘り下げた内容になっています。

◇SPOONさんのサイトで、全文を読むことができます。

→ http://www.spoonnet.jp/special/2007_10.html



紹介されている3人は帰国後庄内に戻ってご活躍ですが、半数以上は東京など県外に職を求めているのが現状です。貴重な経験を県内で生かせる場を増やしていきたいものです。

←月刊『SPOON』2007年10月号より

JICA ホームページ「ワールドレポーター」より→



●JICAボランティア達のナマの声！

2007年秋に開設された《ワールドレポーター》というサイトでは、世界で活躍するJICAボランティアが、自らの活動を写真付きでレポート。かなり高い頻度で投稿されており、世界の「今」を知る貴重な情報源になっています。インタビュー音声も聴けますよ！

◇JICA ワールドレポーターのサイト

→ <http://worldreporter.jica.go.jp/>



ドメイン
変更の
お知らせ

2007年11月、当会のドメイン変更に伴い、ホームページURLとメールアドレスを変更しました。サイト内容を一新し、ブログも開設。機関紙バックナンバーもダウンロード出来ます。アクセスお待ちしております！

<http://www.chikyukazoku.net/>



☆お問い合わせ／ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 Vol.6

平成20年5月31日発行（第6号） 発行人／酒井忠久

発行／〒999-7725 山形県庄内町沢新田151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

TEL&FAX) 0234-42-1458 (富樫) E-mail) info@chikyukazoku.net Website) <http://www.chikyukazoku.net/>

■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』入会のご案内

【会費】 ●個人会員 = 3000円 ●家族会員 = 1000円(個人会員の家族) ●学生会員 = 1000円 ●団体会員 = 10000円(企業及び団体)

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える！『国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》』を、

年間購読料5000円のところ、希望する会員には2000円の送付手数料のみで1年間12冊ご提供いたします。